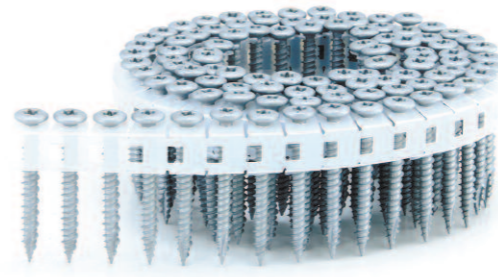




マックスHV-R41MR1



インタトルク採用の連結ねじ(上)(下)

ハイオス

連結ねじにインタトルク

マックス製ねじ打機に採用

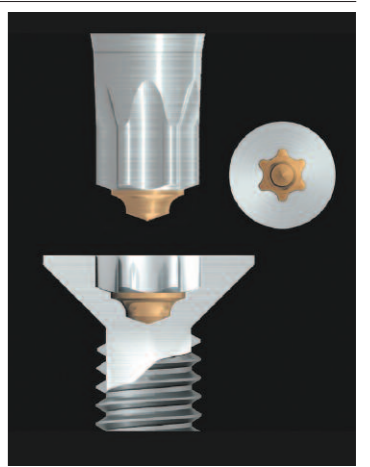
【株式会社ハイオス(東京都墨田区、戸津勝行社長の開発した特殊リセス「インタトルク」が、マックス(株)(東京都中央区)が6月30日に発売した屋根板金施工用ねじ打機「HV-R41MR1」が「HV-R41MR1」の専用連結ねじとして採用された。

インタトルクは、カムアウトを防ぐクサロピミラのリセス中心部に凹部を設け、ビット側にあるスパイクポイントと呼ばれる、ビット先端部を



ねじ中心部に確実に誘導して、さらにくさつきを防止する「ガイド&ロック機能」凸部を差し込むガイドを持つ「フラスナ

根施工に最適な高速ねじ打機「ガルバリウム鋼板」は、経年劣化によるメンテナンスが必要な「スレート」よりも耐用年数が長く、「粘土瓦」よりも軽くて、高い防水性の機能を持ち、屋根材として採用されるケースが増えている。



インタトルク構造

荷重への耐力が求められることや、材質自体が硬質でしっかりと締め込む必要があるため、一方で作業には手間と労力がかかるほか、効率化を求めて十字穴タイプの連結ねじで締め込むと、ガル

バリウム鋼板の特性上「ねじ外れ」やビットの破損が発生するおそれがあった。現場ではこれら課題を解決できるツールが求められていた。こうした中、マックスは高水準のトルク伝達効果を確保して、ビットとの嵌合性も高く、まっすぐなねじが締め込まれること、くさつきを抑制できる「インタトルク」に注目。インタトルクを専用の連結ねじとして採用したHV-R41MR1を開発した。既設のスレートの上から施工する為、ねじ締め時に負荷が特に高くなるカバ工法においてもねじ外れの頻度を抑えて安定したねじ締めを実現した。連結ねじにより、バラねじでの締めよりも作業時間を約2倍

「マックス製機種比」短縮することが可能。ねじ外れを抑制することで、工場の41%をラインナップ。ノンクロムの表面処理を採用。HV-R41MR1の希望小売価格は10万7800円(税込)。

HV-R41MR1の動画にアクセス

